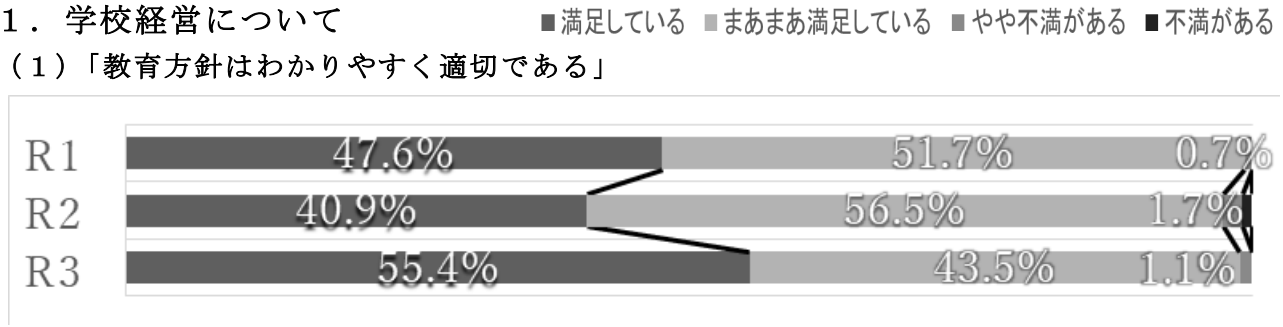
令和３年度「学校評価アンケート」の分析と考察

校長　金木　勝己

１．学校経営について



（１）「教育方針はわかりやすく適切である」

約５５％の皆様から「満足」の評価をいただきました。

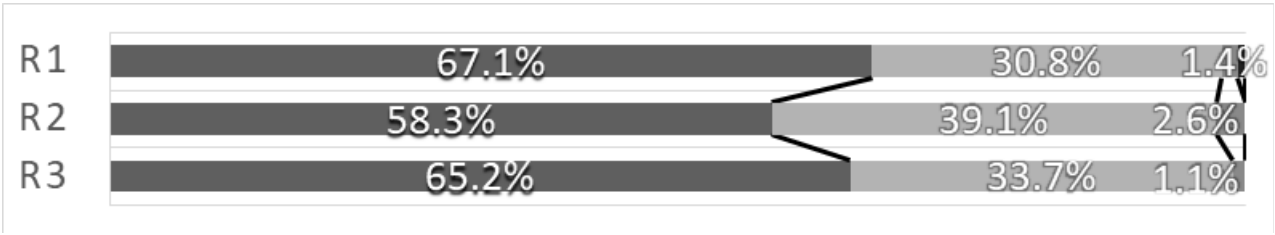
これは、昨年度や一昨年度よりも高いものです。「まあまあ満足」と合わせた数値もこの３年間は９８％前後の数値を示しており、高い評価をいただいています。

本校が目指す児童像は、知・徳・体のバランスがとれた「かしこい子」です。今年度もコロナ禍で学校生活に様々な制限がありましたが、可能な範囲で通常の学校生活を保障し、目指す児童像に向かって取り組みました。

また、本校の経営の大きな柱として「地域コミュニティスクール」があります。これは学校・家庭・地域が連携して学校運営を行うものです。本校では「学校運営委員会」という組織が中心的な役割を担っていただいております。残念なことに今年度もコロナの影響で以前のような取組ができませんでしたが、登下校の見守りや除草作業等の活動をしていただきました。

今後は、コロナの状況を注視し、学校運営委員会の協力を得ながら「目指す児童像」の具現化のために取り組んでまいります。

（２）「施設設備が整い、環境が整備されている」



約９９％の皆様から「まあまあ満足」以上の評価をいただきました。

児童の学習成果等の掲示物を含めた校舎内の環境は、常に維持向上に努めています。

また、敷地内の除草作業や樹木剪定等の環境整備は、学校環境整備委員会やＰＴＡの皆様のご支援をいただきました。コミュニティスクールは、「お互い様」の関係で成り立っています。

今後も引き続き、皆様にご理解とご協力をいただきながら、環境を整えてまいります。児童もできる範囲で環境整備に参画し、主体性と感謝の気持ちを育んでまいります。

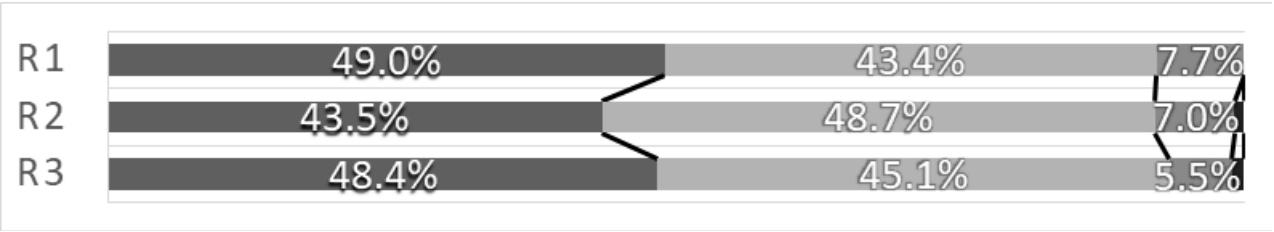
（３）「安全な学校である」

約９９％の皆様から「まあまあ満足」以上の評価をいただきました。

今年度の安全指導は、昨年度に引き続き、授業・給食・休み時間でのコロナ対応が中心になりました。それ以外でも登下校時の交通安全や地震等の緊急時の避難等につきましても指導してきました。

今後も、日々の安全指導や避難訓練等を通じて、「自分の命は自分で守る」ことができるように、自ら考えて行動できる児童の育成に努めてまいります。保護者や地域の皆様には、引き続き登下校での見守り等でご協力をお願いいたします。

（４）「問題に適切に対処し、信頼できる」



約９４％の皆様から「まあまあ満足」以上の評価をいただきました。

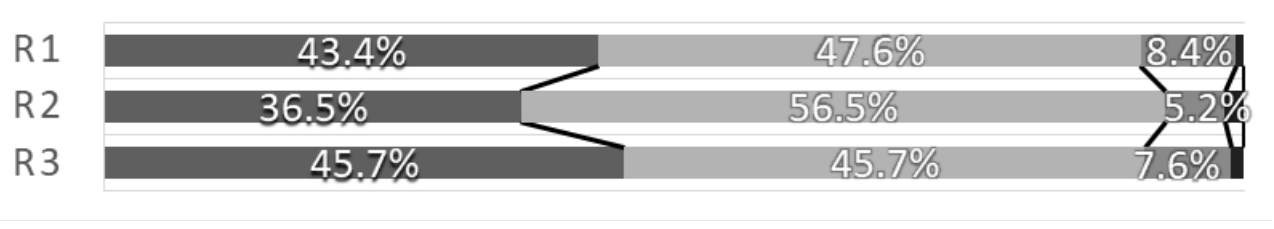
今年度もコロナの影響で多くの課題が発生しました。その中で本校では、教育委員会とも連携しながら、「子供たちにとってプラスになるかどうか」という基準で対応してきました。

具体的には、バスを利用しての校外学習を再開し、運動会は２部に分散しながらも保護者の皆様に参観していただきました。また、音楽発表会の様子をタブレット端末を活用してご家庭で見ていただきました。

今後も厳しい状況が続き、新たな課題が発生することが予想されますが、判断基準を児童に定め、児童一人ひとりに応じた適切な指導ときめ細かで丁寧な対応に努めてまいります。併せて、ＰＴＡや学校運営委員会とも連携してながら取組んでまいります。

２．学校生活について

（１）「学習指導が充実している」



約９１％の皆様から「まあまあ満足」以上の評価をいただきました。

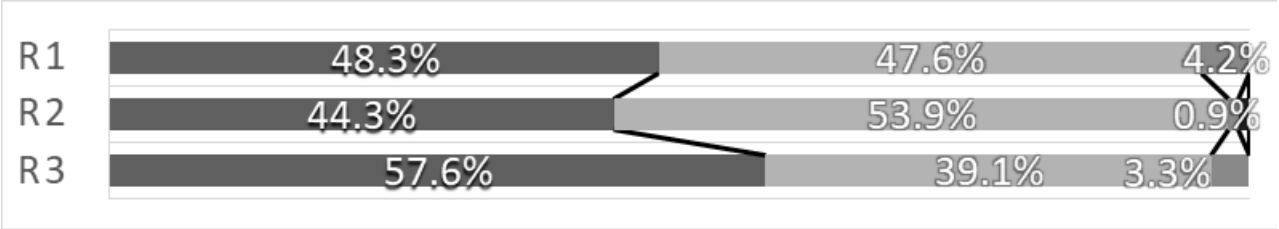
本校では職員研修のテーマを「どの子も楽しく『分かる・できる』授業の工夫」として、ユニバーサルデザイン（はじめから、あらゆる人が快適に利用できるようにデザインすること）

の視点を取り入れながら、授業の「焦点化・視覚化・共有化」にポイントを絞り、授業改善に取り組んでいます。今年度は外部講師を招聘して研究授業を３回実施しました。

また、コロナの影響で学習活動にも制限が多い状態が続きましたが、GIGA スクール構想に基づきタブレット端末を活用しての学習環境の整備に努めました。

今後も全ての児童が「分かる・できる」と実感できるように、指導法の工夫と改善を行いながら学習活動の充実に努めてまいります。保護者の皆様におかれましても、家庭学習の見守りや学習用具の確認等のご協力をお願いいたします。

（２）「子どもが適切に評価されている」

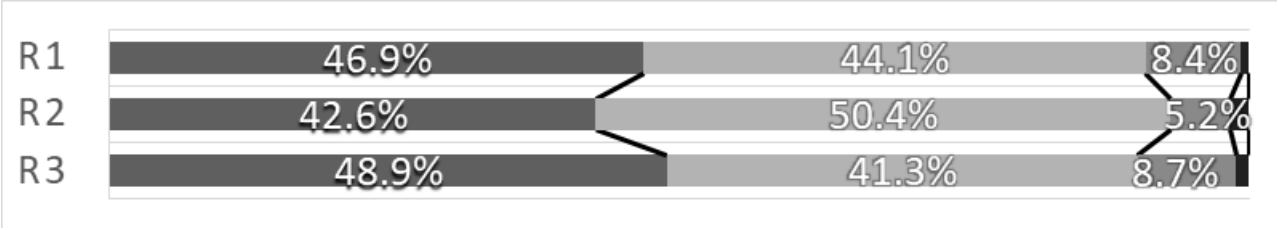


約５８％の皆様から「満足」との評価をいただきました。これはこの３年間で最も高い数値で、「まあまあ満足」と合わせた数値もこの３年間は９５％以上の評価をいただいております。

評価の場面は授業・係活動・クラブ活動・委員会活動・学校行事・休み時間等、様々な場面があります。本校では予めそれぞれの場面で「めあて」をしっかりともたせ、それが達成できるように教師が支援しています。また、単に結果だけではなく、それまでの頑張りのプロセスも大切にしています。

今後も児童が達成感を味わい自己肯定感をもてるように、一人ひとりの児童の実態に応じた評価に努めてまいります。

（３）「一人ひとりを大切にした指導をしている」



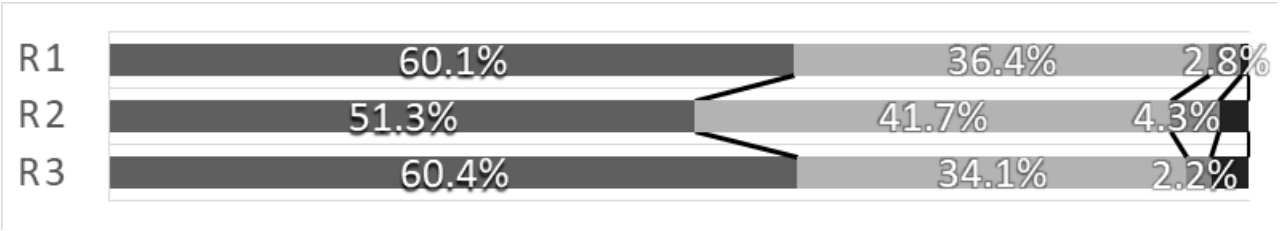
約９０％の皆様から「まあまあ満足」以上の評価をいただきました。

２（１）でも述べましたが、本校ではユニバーサルデザインの視点を取り入れて、どの子にも楽しく「わかる・できる」ように授業改善に取り組んでいます。通常学級はもとより支援学級におきましても意識しながら取り組んでおります。

また、ユニバーサルデザインの視点は授業だけでなく、生徒指導の場面も含めた学校生活全体にわたりますが、全職員で組織的に取り組んでいます。

今後も、児童一人ひとりの実態を把握しながら努力のプロセスを大切にしながら、自己肯定感をもてるように指導してまいります。

（４）「子どもが楽しく通えている」



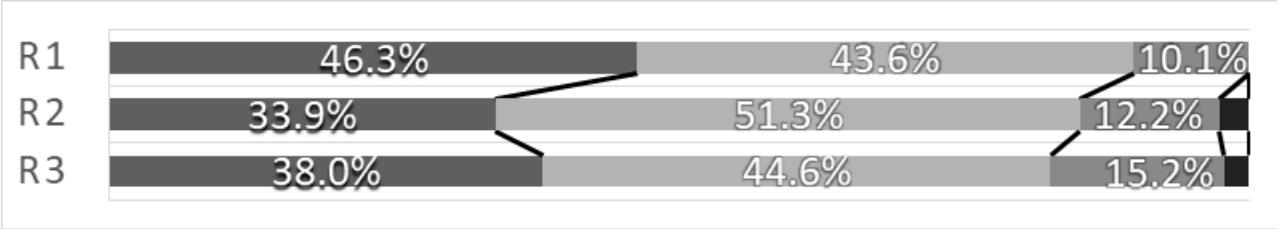
約６０％の皆様から「満足」との評価をいただきました。昨年度よりも９ポイント高くなっており、「まあまあ満足」と合わせた数値は約９５％となりました。

昨年度は、児童が楽しみにしていた多くの教育活動を縮小あるいは中止せざるを得ませんでした。今年度は、その反省を生かして、１（４）や２（１）でも述べましたが、限られた条件の中で可能な範囲で教育活動を再開し、学習活動にも力を入れてきました。

今後も、児童が達成感を味わい、自己肯定感を育くむことができるように、表面的ではなく「深い意味」で楽しく通える学校づくりに努めてまいります。

３．地域とともに歩む学校づくりについて

（１）「学校の様子が保護者や地域によく伝わっている」



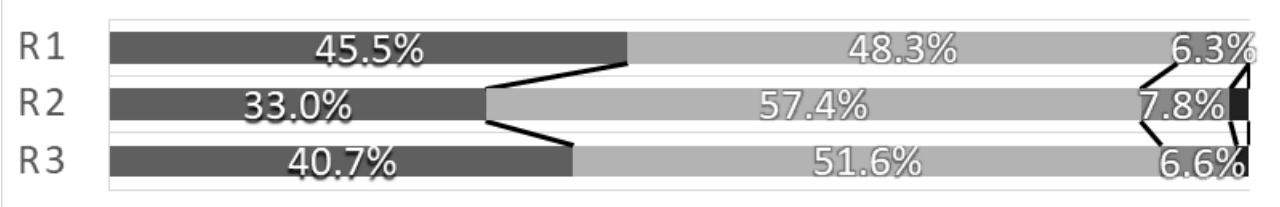
３８％の皆様から「満足」という評価をいただきました。昨年度よりも約４ポイント高くなりました。しかし、「まあまあ満足」を合わせた数値は、約８３％と年々下がっております。

今年度は、１（４）で述べたように限られた条件の中で可能な範囲で教育活動を再開し、保護者の皆様には状況が許す範囲でその様子をご覧いただきました。しかし、２回予定されていた授業参観は１度しか実施できず、ＰＴＡ総会並びに学校評価説明会も開催されませんでした。

地域の皆様におかれましては、来校の機会がほとんど無く、特に学校運営委員会の皆様には、以前のように児童の学習活動に関わっていただく機会を十分に設定できませんでした。

今後は、学校便りや学年便り及びホームページ等を活用して広報の充実を図ると共に、学校運営委員会やＰＴＡとも連携しながら、このような状況の中で学校の様子を伝える方法を検討してまいります。

（２）「保護者や地域の願いに応えている」



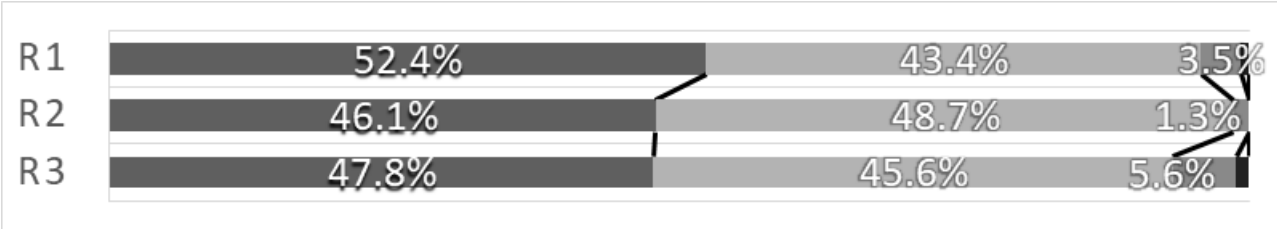
約４１％の皆様より「満足」の評価をいただきました。昨年度よりも約８ポイント増えています。「まあまあ満足」と合わせると約９２％となり、こちらも昨年度を上回っています。

今年度も昨年度同様に、ＰＴＡ活動や学校運営委員会の活動が予定通りに実施することができず、保護者や地域の皆様からの願いやご意見を直接伺う機会が十分にありませんでした。

そのような中でも、保護者の皆様からは、毎日の連絡帳や年２回の個人面談で貴重なご意見やご要望等をいただきました。また、学校運営委員会の皆様からは、会議や環境美化活動並びに登下校指導等の際に貴重なお話を伺うことができました。

今後もこのような機会を大切にし、学校評価アンケートを活用しながら皆様の願いをしっかりと受け止めながら対応してまいります。

（３）「保護者や地域の力が生かされている」



コロナ禍で教育活動が制限されているこの２年間は、「満足」の数値は４７％前後と低いものとなっています。これは３（２）で述べたように保護者や地域の方が来校する機会が大幅に減少したことが主な理由だと考えております。

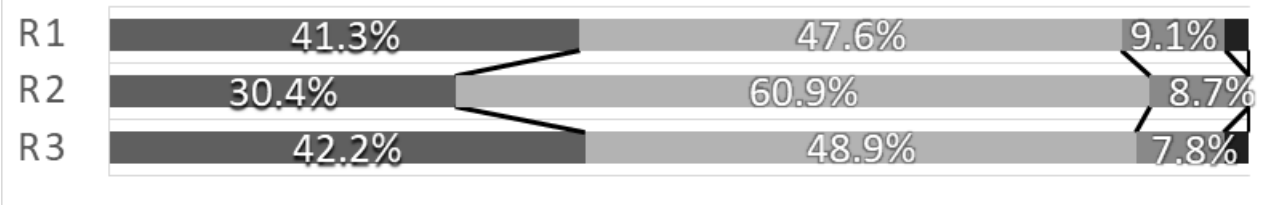
そのような状況の中で、環境整備活動や５年生のコメ作り学習、４年生の里山体験、３・４年生の御奉射（おびしゃ）体験、登下校指導等、多くの場面で保護者や地域の皆様にご協力をいただきました。

本校の教育活動の中には、多くの場面で保護者や学校運営員会の皆様が関わるものが組み込まれており、皆様の力は欠かせません。

今後も限られた条件の中ですが、皆様のご協力をいただきながら教育活動を行いたいと考えております。今後もご協力をお願いいたします。

４．いじめについて

（１）「いじめについて未然防止の手立てを講じている」

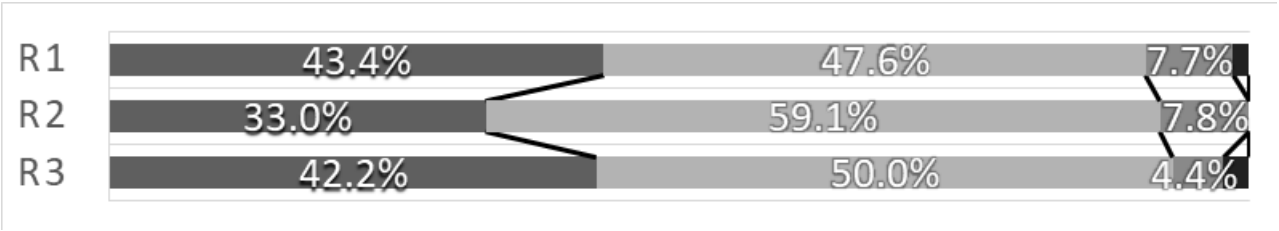


約４２％の皆様より「満足」の評価をいただきました。昨年度は約３０％だったので、１２ポイント増え、「まあまあ満足」と合わせると、この２年間は約９１％の評価になっています。

今年度も、「白銀小いじめ防止基本方針」に基づき、全職員で組織的にいじめ根絶に取り組みました。具体的には、毎日の児童観察をはじめとして、道徳教育や体験活動の充実、並びに相談体制の整備や定期的な「いじめンケート」を通しての未然防止と早期発見に努めました。

今後も引き続き、共感的な児童理解に基づく学級経営とだれでも「わかる・できる」授業を推進しながら、児童一人ひとりに自己肯定感と人権意識を育みながら、いじめの未然防止に努めてまいります。保護者の皆様には、お子様への肯定的な言葉かけ等ご協力をお願いします。

（２）「いじめについて適切に対処している」



約４２％の皆様より「満足」の評価をいただきました。昨年度と比べると９ポイント増え、「まあまあ満足」と合わせると、この３年間は常に９１％の評価をいただいています。

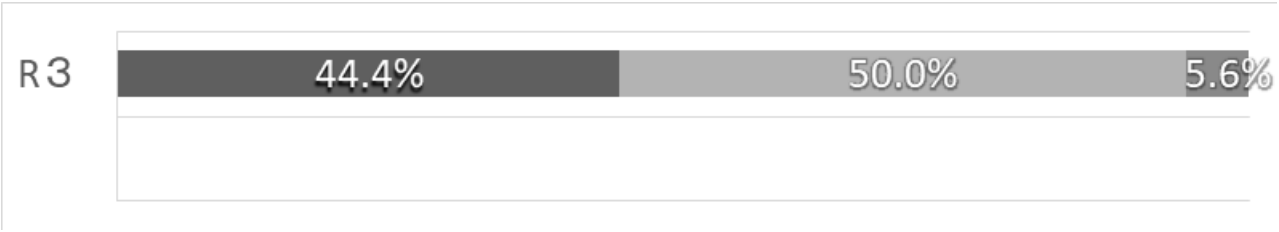
今年度も、いじめアンケートや本人の訴え等から、いじめが疑われる場合には、速やかに関係する児童の聞き取りを行うとともに、ご家庭にも連絡をとりながらスピード感をもって丁寧に対応するように心がけてきました。また、表面的に収まったように見えても解決したと判断せず、継続的な見守りと支援を行っています

今後もお子様の表情や交友関係等に変化が見られる等、気になることがございましたら、いつでもご連絡ください。

引き続き、学校・保護者・地域及び関係機関と連携しながら「いじめ根絶」を目指して取り組んでまいります。

５．校則の見直しについて

（１）「児童の実態に即したきまりとなっている」



校則に関しては、今回、初めて伺いましたが、約９４％の皆様より「まあまあ満足」以上の評価をいただきました。

今回、各家庭に配付した校則は、児童にその必要性について考えてもらい、今までのものを修正したものです。その際の視点は、全ての児童が安心安全で気持ちよく学校生活を送ることができ、児童自身の能力を十分に発揮できるかです。

今後も引き続き、児童の意見を尊重しながら、児童の実態や社会の変化に応じて修正を図ってまいります。各ご家庭におかれましては、発達段階に応じた「躾（しつけ）」につきましてご協力をお願いします。

６．全体を振り返って

保護者の皆様には、「学校経営」「学校生活」「地域とともに歩む学校づくり」「いじめ対応」「校則」という５つの観点で評価していただきました。ご協力いただいた家庭は、１４９家庭中９２で、回答率は６１．３％になりました。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

昨年度はコロナ１年目ということもあり、多くの学校行事が縮小や中止され、授業内容も大幅に変更になりました。授業参観やしろがね文化祭も中止を余儀なくされ、保護者や学校運営委員会の皆様が来校する機会が大幅に減少しました。

このような状況を受け、昨年度の評価結果は、「学校の様子が保護者や地域によく伝わって

いる」「保護者や地域の願いに応えている」といった、保護者や地域との連携に関する評価が特に低くなりました。

コロナ２年目の今年度は、昨年度の評価結果を受けて、「限られた条件の中で子供たちのために何ができるか」という問題意識を強くもちながら学校経営を行ってまいりました。

ここで、アンケート結果を振り返ります。

まず、「満足」であると回答した割合を昨年度と比較すると、１３項目全てで上回りました。これは、今年度の本校の取組を保護者の皆様に評価していただいた成果の一端を示すものと考えております。

また、「満足」と「まあまあ満足」を合わせた数値で、昨年度を上回っているのは、１３項目中７項目でした。（今年度は「校則」に関する項目が新たに加わったので１４項目になりました。）以下、「満足」と「まあまあ満足」を合わせた数値で、それぞれの項目に沿って振り返ります。

（１）学校運営について

「学校の教育方針はわかりやすく適切である」「施設設備が整い、環境が整備されている」「安全な学校である」「問題に適切に対処し、信頼できる」といった４つの項目は、わずかですが全て昨年度を上回りました。これは、ウイズコロナという限られた条件の中でも学習活動を保障し、児童に達成感を味わわせたいという、今年度の学校経営の方向性について、ご理解いただいたものと受け止めています。

（２）学校生活について

「子供が楽しく通えている」という項目がわずかに昨年度を上回りました。これは、昨年度の反省を生かして、校外学習やクラブ活動及び委員会活動等を再開した結果、児童が達成感を味わう機会が増加したことが理由の一つだと考えています。また、可能な範囲で規制を緩和して業間や昼休みを児童に保障することで、仲間との豊かな時間を通して自己肯定感を育む機会が増加したことも理由の一つとして考えています。

一方で「学習活動が充実している」「子供が適切に評価されている」「一人ひとりを大切にした指導をしている」という項目は昨年度を下回りました。これにつきましては謙虚に受け止め、児童一人ひとりの実態に合った分かる授業の展開や、共感的な児童理解に基づいた生徒指導について研究と修養を深めてまいります。

（３）地域とともに歩む学校作りについて

「保護者や地域の願いに応えている」という項目がわずかに昨年度を上回りました。しかし、「学校の様子が保護者や地域によく伝わっている」「保護者や地域の力が生かされている」といった項目は昨年度を下回り、コロナ前の令和元年度と比べると全ての項目で下回っています。

本校の開校の理念は、「地域と共に歩む学校」です。この理念の基に学校運営委員会が組織され、学校・家庭・地域が一体となった様々な教育活動が展開されてきました。

現在は、以前のように皆様が気軽に来ていただくことが難しくなっています。しかし、引き続き開校の理念を大切にしながら、ウイズコロナでの教育活動につきまして、皆様と一緒に考えてまいりたいと考えています。

（４）いじめについて

「いじめについて適切に対応している」という項目が昨年度を上回り、「未然防止の手立てを講じている」という項目が昨年度を下回りましたが、どちらもわずかな差です。

自分を大切にできない人間は、相手の立場に立って考えることが難しいと言われます。反対に「自分は大切にされている」「自分のことが好きだ」という「自己肯定感」をもつ人間は相手を大切にするそうです。

このように全ての児童が自分のことを好きになることが、いじめの未然防止のために不可欠だと考えます。本校では、引き続き、授業や休み時間を含めた学校生活全体を通して、児童が達成感を味わいながら、自己肯定感を育むことができるように強く意識して取り組んでまいります。そして、事後対応につきましても、いじめに関わる全ての児童の思いに寄り添い、併せて家庭との連携を密に図りながら、全校体制で組織的に迅速に対応してまいります。

（５）校則について

今年度は初めて、実際に本校の約束について記載した文書を配付し、「児童の実態に即したきまりとなっている」かを尋ねました。結果から、概ね皆様にご理解いただいたものと受け止めております。

今回、配付した「学校のきまり」は、これまでのものを学級ごとに話し合いながら見直しを図ったものです。児童には、「なぜ、このような約束が必要なのか」考えてもらいました。このように、本校では、先生から押しつけられたものではなく、自分たちが決めた「約束」として位置づけています。

校則は、児童が学校生活の中で「自己実現」を図るための手段であり、守らせることが目的ではありません。したがいまして、児童が安心して学校生活を送り、自身の能力や資質を十分に発揮することができ、将来に繋がるものでなければなりません。校則は、全ての児童が知・徳・体のバランスのとれた「かしこい子」に育つための約束です。

（６）その他

今年度の回答率は６１．３％でした。昨年度は７５．２％、一昨年度は８７．２％と次第に下がり、今年度は３年間で最も低い数値でした。

原因としては、昨年度から調査方法がそれまでの紙を使ったアンケートからＱＲコードを使っての電子アンケートも導入したことが考えられます。確かに電子アンケートは慣れた人には負担が減り有効ですが、不慣れな方にとっては負担が大きくなります。そこで、この２年間はＱＲコードとアンケート用紙の両方で回答方法を選択していただきました。今後は、回答期間を長く設定する等、回答率の向上に努めます。

しかし、原因の本質は学校経営そのものにあると考えています。今後は保護者の皆様がさらに主体的に学校経営に参画できるように、学校運営委員会やＰＴＡとも協議しながら取り組んでまいります。

いつまでもコロナを理由に教育活動を停滞させることはできません。今年度は、限られた条件の中でどのような工夫ができるか、全職員で考えながら取り組みました。その成果が現れた取組もあれば、引き続き対応が必要な内容も多くあります。

改めて振り返りますと、保護者や地域の皆様には様々な面でご協力をいただき、職員を温かく見守っていただきました。おかげさまで、我々職員は児童のために全力で取り組むことができました。皆様に改めて心から感謝申し上げます。

来年度も厳しい日々が続くと思われますが、今回のアンケート結果を謙虚に受け止めながら、「児童のために何ができるか」という問題意識を全職員で共有しながら、学校経営を行っていく所存です。皆様におかれましては、引き続きご理解とご協力をお願いします。